

### 1. 人員体制

(1) 診療放射線技師6名で業務を遂行し、主な業務は一般撮影、CT、MRI、骨密度測定、造影透視で、救急外来に対しても24時間の対応を行った。また健診において胃透視、マンモグラフィ、体組成・骨密度測定、腹部超音波検査などを行った。

### 2. 今年度の活動

#### (1) 放射線機器について

前年度老朽化に伴う機器の更新作業を行った。それらの操作研修やマニュアルの整備など随時行った。特にMRI装置に関しては脳神経外科医師と協議を重ねながら、機器メーカーとも協力し適切な画像の提供に努めた。また、済生会熊本病院中央放射線部とも情報共有し、機器の調整等を行うことができた。

次年度以降更新予定の外科用イメージ装置や3Dワークステーションなどに関しては、関連部署とも協議しつつ費用対効果など踏まえて更新を検討していく。

#### (2) 遠隔読影診断の導入

実績：CT検査774件、MRI検査541件、マンモグラフィ検査219件、胃透視検査232件、一般撮影1,517件

適宜遠隔読影会社とも情報共有し、当院医師と読影医師との橋渡し役も行い円滑な読影結果の提供を実施した。

#### (3) 技術連携について

済生会熊本病院中央放射線部と定期的に意見や情報の交換を行い、連携強化に努めてきた。機器の更新に伴い、適宜相談や検討を行うことができた。

PERIO-DXプロジェクトにおいても済生会熊本病院中央放射線部との連携をさらに強固にすることができ、今後の医療の質の向上につなげることができた。

#### (4) 放射線管理体制の構築

放射線管理委員会を開催し、定例報告や放射線測定バッチの使用状況などの更新をおこなった。また、8月20日に“診療用放射線の安全管理に関する研修会”をWeb上で開催した。

#### (5) 職場環境について

ワークライフバランスを重視し、各人がストレスなく職場と生活の両立ができるような部署を目指し、年間休暇の取得や突発的な休暇もフォローできるような体制を確立した。また当直業務に関しても相互の理解の中でスムーズに遂行できるように適宜検討を行った。

### 3. 今後の課題と展望

#### (1) 放射線被ばく管理に関する院内向け教育の継続実施

放射線被ばくに関する情報を院内へ発信し、放射線検査に対する意識を高め、放射線被ばくに関する啓蒙を行っていく。研修会の内容などもしっかり検討し、安心安全な検査の提供を実施していきたい。

